

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2020年1月2日(02.01.2020)



(10) 国際公開番号

WO 2020/003512 A1

(51) 国際特許分類:
A61F 13/49 (2006.01) *A61F 13/496* (2006.01)

田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社
テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(21) 国際出願番号: PCT/JP2018/024896

(22) 国際出願日: 2018年6月29日(29.06.2018)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(**UNICHARM CORPORATION**) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).

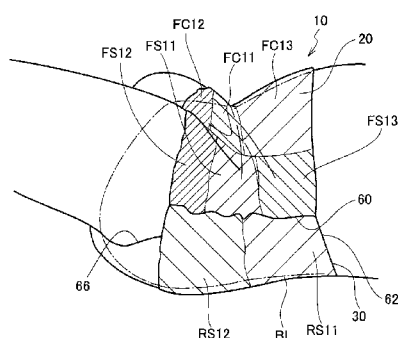
(72) 発明者: 工藤 悦子(**KUDO, Etsuko**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 山下 純子(**YAMASHITA, Junko**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1 - 7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 坂口 智(**SAKAGUCHI, Satoru**); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和

(74) 代理人: フェリシテ特許業務法人 (**FELICITE PATENT PROFESSIONAL CORPORATION**); 〒1050002 東京都港区愛宕二丁目 5 番 1 号 Tokyo (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(54) Title: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品



(57) Abstract: Provided is an absorbent article that can be prevented from slipping down without degrading the comfort thereof when worn. A front waist region (S1) of the absorbent article has a front central section (FC) located at the center of the front waist region in the width direction, and has front side regions (FS). A rear waist region (S2) of the absorbent article has a rear central section (RC) located at the center of the rear waist region in the width direction, and has rear side sections (RS). The front central section has a highly-contractible region (FC11). The front side sections have highly-contractible regions (FS11). The rear central section has a highly-contractible region (RC11). The rear side sections have highly-contractible regions (RS11). The highly-contractible region of the front central section is adjacent in the width direction to the highly-contractible regions of the front side sections. The highly-contractible regions of the front side sections are adjacent in the width direction to the highly-contractible regions of the rear side sections. The highly-contractible regions of the rear side sections are adjacent in the width direction to the highly-contractible region of the rear central section.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

(57) 要約: 装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる吸収性物品を提供する。吸収性物品の前胴回り域(S1)は、前胴回り域の幅方向の中央に位置する前中央部(FC)と、前サイド部(FS)と、を有し、後胴回り域(S2)は、後胴回り域の幅方向の中央に位置する後中央部(RC)と、後サイド部(RS)と、を有する。前中央部は、高収縮領域(FC11)を有する。前サイド部は、高収縮領域(FS11)を有する。後中央部は、高収縮領域(RC11)を有する。後サイド部は、高収縮領域(RS11)を有する。前中央部の高収縮領域は、前サイド部の高収縮領域と幅方向に隣接している。前サイド部の高収縮領域は、後サイド部の高収縮領域と幅方向に隣接している。後サイド部の高収縮領域は、後中央部の高収縮領域と幅方向に隣接している。

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、使い捨ておむつ等の吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 使い捨ておむつ等の吸収性物品は、身体の腹側及び背側を覆うように装着される。着用者の身体に対するフィット性を向上し、ずれ下がり抑制する吸収性物品が知られている（下記特許文献1）。特許文献1の吸収性物品の前胴回り域及び後胴回り域のそれぞれには、各胴回り域の長手方向の全長に対する割合で示される複数のゾーンが設けられている。複数のゾーンは、引っ張り応力が異なっている。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開2016-047225号公報

発明の概要

[0004] 吸収性物品のずれ抑制のニーズは高く、未だ改善の余地がある。ここで、吸収性物品全体がずれ下がることを抑制するために、吸収性物品全体の収縮力を高めることが考えられる。しかし、吸収性物品全体の収縮力を高めると、身体に対する締め付けが強くなり、装着感が悪化するおそれがある。

[0005] そこで、装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる吸収性物品が望まれる。

課題を解決するための手段

[0006] 一態様に係る吸収性物品は、互いに直交する長手方向及び幅方向と、前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、を有し、

前記前胴回り域は、前記前胴回り域の前記幅方向の中央に位置する前中央部と、前記前中央部よりも前記幅方向の外側に位置する前サイド部と、を有

し、

前記後胴回り域は、前記後胴回り域の前記幅方向の中央に位置する後中央部と、前記後中央部よりも前記幅方向の外側に位置する後サイド部と、を有し、

前記前胴回り域の前記幅方向の外側部と前記後胴回り域の前記幅方向の外側部とが接合された吸収性物品であって、

前記前中央部は、前記前中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前中央部を有し、かつ前記前中央部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前サイド部は、前記前サイド部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前サイド部を有し、かつ前記前サイド部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後中央部は、前記後中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の後中央部を有し、かつ前記後中央部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後サイド部は、前記後サイド部の前記長手方向の全長を10等分した複数の後サイド部を有し、かつ前記後サイド部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記後サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記後中央部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接している、吸収性物品。

図面の簡単な説明

[0007] [図1]実施形態に係る吸収性物品の平面図である。

[図2]実施形態に係る吸収性物品の前中央領域、前サイド領域、後中央領域及び後サイド領域を示した図である。

[図3]実施形態に係る吸収性物品の装着状態を模式的に示した図である。

[図4]実施形態に係る吸収性物品の装着状態を模式的に示した図である。

[図5]実施形態に係る吸収性物品の装着状態を模式的に示した図である。

発明を実施するための形態

[0008] (1) 実施形態の概要

本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

一態様に係る吸収性物品は、互いに直交する長手方向及び幅方向と、前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、を有し、

前記前胴回り域は、前記前胴回り域の前記幅方向の中央に位置する前中央部と、前記前中央部よりも前記幅方向の外側に位置する前サイド部と、を有し、

前記後胴回り域は、前記後胴回り域の前記幅方向の中央に位置する後中央部と、前記後中央部よりも前記幅方向の外側に位置する後サイド部と、を有し、

前記前胴回り域の前記幅方向の外側部と前記後胴回り域の前記幅方向の外側部とが接合された吸収性物品であって、

前記前中央部は、前記前中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前中央部を有し、かつ前記前中央部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前サイド部は、前記前サイド部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前サイド部を有し、かつ前記前サイド部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後中央部は、前記後中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の後中央部を有し、かつ前記後中央部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後サイド部は、前記後サイド部の前記長手方向の全長を10等分した

複数の後サイド部を有し、かつ前記後サイド部の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記後サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記後中央部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接している。

[0009] 前中央部の高収縮領域が前サイド部の高収縮領域に幅方向に連なっているため、前中央部と前サイド部において身体に対して密着する領域が幅方向に連続する。また、前サイド部の高収縮領域が後サイド部の高収縮領域に幅方向に連なっているため、前サイド部と後サイド部において、身体に対して密着する領域が幅方向に連続する。更に、後サイド部の高収縮領域が後中央部の高収縮領域に幅方向に連なっているため、後サイド部と後中央部において、身体に対して密着する領域が幅方向に連続する。このように、前胴回り域から後胴回り域に亘って高収縮領域が幅方向に連続するため、当該高収縮領域が着用者の腰周りを一周覆うように配置される。腰周りを一周覆うように配置される高収縮領域が身体に密着し、吸収性物品のずれ下がり抑制できる。また、高収縮領域以外の領域で身体に密着しないため、吸収性物品全体に亘って身体に密着せず、着用時の違和感が少ない。後胴回り域及び前胴回り域の領域毎に収縮力を規定し、吸収性物品が下がることを抑制することにより、装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる。

[0010] 好ましい一態様によれば、前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記前中央部の前記高収縮領域よりも前記長手方向外側に延出してよい。着用者の腹部の幅方向の中央の凹みは、腹部の下端に位置し、腹部の側部（幅方向の外側）の凹みは、腰骨に位置している。よって、着用者の腹側における身体の凹みは、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって上方に向かっている。前サイド部の高収縮領域が前中央部の高収縮領域よりも長手方向外側に延出し

ているため、腹部の幅方向の凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれにくくなる。

[0011] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域より前記長手方向内側に延出してよい。着用者の腹部における身体の凹みは、幅方向の中央が幅方向の外側よりも股下側に延びている。前中央部の高収縮領域が前サイド部の高収縮領域よりも長手方向内側に延出しているため、腹部の凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれにくくなる。

[0012] 好ましい一態様によれば、前記前サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さは、前記前中央部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さよりも長くてもよい。一般的に、腹部の幅方向の中央の凹みの長手方向の長さは、腹部の幅方向の外側の凹みの長手方向の長さよりも短い。前中央部の高収縮領域の長手方向の長さが比較的短いことにより、腹部の下端の凹みに密着しつつ、腹部の膨らんだ部分を締め付けることを抑制できる。また、腹部の膨らんだ部分に高収縮領域が配置されないことにより、高収縮領域が腹部の膨らんだ部分から腹部の凹み側にずれることを抑制し、吸収性物品の長手方向のずれを抑制できる。

[0013] 好ましい一態様によれば、前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記前サイドの前記高収縮領域よりも前記長手方向外側に延出してよい。着用者の身体の凹みは、腹部から背部に向かって上方に延びている。後サイド部の高収縮領域が前サイド部の高収縮領域よりも長手方向外側に延出しているため、腹部から背部に向かって上方に延びる凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれ難くなる。

[0014] 好ましい一態様によれば、前記前サイドの前記高収縮領域は、前記後サイド部の前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に延出してよい。着用者の腹

部の側部における凹みは、腰骨に設けられ、背部の側部における凹みは、臀部の頂点よりも上側に設けられている。また、着用者の腹側における身体の凹みは、幅方向の側部から幅方向の中央に向かって股下側に向かっている。よって、着用者の身体の凹みは、背部から腹部に向かって股下側に延びている。前サイド部の高収縮領域が後サイド部の高収縮領域よりも長手方向内側に延出しているため、背部から腹部に向かって股下側に延びる凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれにくくなる。

[0015] 好ましい一態様によれば、前記後サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さは、前記前サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さよりも長くてよい。一般的に、腹部の凹みの長手方向の長さは、背部の凹みの長手方向の長さよりも短い。前サイド部の高収縮領域の長手方向の長さが比較的短いことにより、腹部の凹みに密着しつつ、腹部の凹み以外の部分を締め付けることを抑制できる。また、腹部の凹み以外の部分に高収縮領域が配置されないことにより、高収縮領域が腹部の凹み側にずれることを抑制し、吸収性物品の長手方向のずれを抑制できる。

[0016] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%に位置してよい。一般的に、前中央部の前端縁から前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%の領域は、着用者の腹部の下端の凹みと対向して配置される。よって、高収縮領域が腹部の下端の凹みにフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0017] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%のみに位置してよい。高収縮領域が腹部の下端の凹みに対応する領域のみに位置するため、腹部の下端の凹みに高収縮領域が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、腹

部の下端の凹み以外の部分（腹部の膨らんだ部分等）に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0018] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記高収縮領域の平均の前記収縮力は、前記前中央部全体の平均の前記収縮力の2.0倍以上であってよい。前中央部の高収縮領域は、前中央部においてより収縮し、幅方向の寸法が短くなる。よって、前胴回り域は、腹部の下端の凹みに配置される高収縮領域が周囲の領域よりも凹む形状となる。前胴回り域が身体の凹みに沿った形状となるため、前胴回り域が身体によりフィットし易くなる。前胴回り域を身体に対して密着させずに、前胴回り域を身体に沿わせてフィットさせることができる。よって、装着感を向上できる。加えて、体液の吸収によって吸収性物品の重量が重くなった場合においても、吸収性物品がずれ下がり難くなる。

[0019] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記高収縮領域の平均の前記収縮力は、前記前中央部全体の平均の前記収縮力の2.5倍以上であってよい。前胴回り域は、より身体の凹みに沿った形状となり、装着感を向上させつつフィット性を高めることができる。

[0020] 好ましい一態様によれば、前記後サイド部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80%に位置してよい。一般的に、後サイド部の後端縁から後サイド部の長手方向の全長に対する0～80%の領域は、着用者の臀部の頂点よりも上側に対向して配置される。よって、高収縮領域が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。

[0021] 好ましい一態様によれば、前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80%のみに位置してよい。高収縮領域が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に対向して配置されるため、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。また、臀部の頂点よりも胴回り寸法

が短い部分以外の領域に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0022] 好ましい一態様によれば、前記後中央部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80%に位置してよい。一般的に、後中央部の前端縁から後中央部の長手方向の全長に対する0～80%の領域は、着用者の臀部の頂点よりも上側に対向して配置される。よって、高収縮領域が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。

[0023] 好ましい一態様によれば、前記後中央部の前記高収縮領域は、前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80%のみに位置してよい。高収縮領域が臀部の頂点よりも上側のみに対向して配置されるため、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に高収縮領域が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。また、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分以外の領域に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0024] 好ましい一態様によれば、前記吸収性物品全体の前記幅方向の全体収縮力は、6 N以下であってよい。吸収性物品全体の幅方向の全体収縮力が6 N以下であるため、着用時の違和感が少ない。後胴回り域及び前胴回り域の高収縮領域によって吸収性物品が下がることを抑制することにより、装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。

[0025] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%は、着用者の腹部の下端の凹みと対向して配置されてよい。前中央部の高収縮領域が腹部の下端の凹みにフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。

[0026] 好ましい一態様によれば、前記前中央部は、前記高収縮領域と、前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に位置し、かつ前記前中央部の平均の収縮力

よりも低い低収縮領域と、を有してよい。前中央部において低収縮領域の高収縮領域側への移動を抑制しつつ高収縮領域のフィット性を維持し易い。加えて、低収縮領域よりも長手方向の外側に高収縮領域が配置されているため上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。

[0027] 好ましい一態様によれば、前記前中央部の前記低収縮領域の平均収縮力は、前記前中央部の前記高収縮領域の平均収縮力の0～20%であってよい。高収縮領域のフィット性をより維持し易い。

[0028] 好ましい一態様によれば、前記前サイド部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記前サイド部の前端縁から前記前サイド部の前記長手方向の全長に対する40～80%に位置してよい。一般的に、前サイド部の前端縁から前サイド部の長手方向の全長に対する40～80%の領域は、着用者の腰骨に対向して配置される。よって、高収縮領域が腹部の凹みにフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。

[0029] 好ましい一態様によれば、前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前端縁から前記前サイド部の前記長手方向の全長に対する40～80%のみに位置してよい。高収縮領域が腹部の凹みに対応する領域のみに位置するため、腹部の凹みに高収縮領域が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりより抑制できる。また、腹部の凹み以外の部分に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0030] 好ましい一態様によれば、前記後中央部の前記高収縮領域は、前記幅方向に伸縮する後伸縮性部材が配置されてよい。後中央部の高収縮領域は、後伸縮性部材によって収縮し、身体にフィットし易い。

[0031] 好ましい一態様によれば、少なくとも前記股下域及び前記後胴回り域に配置された吸収コアを有し、前記後伸縮性部材は、前記吸収コアと重なる領域に配置されてよい。後伸縮性部材によって吸収コアが幅方向に収縮することにより、吸収コアの厚みが厚くなる。臀部の頂点よりも上側の凹んだ部位に

吸収コアがフィットすることみより、フィット性をより向上できる。

[0032] 好ましい一態様によれば、前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80%は、着用者の臀部の頂点よりも上側に向向して配置されてよい。後中央部の高収縮領域が臀部の頂点よりも上側の斜面に引っかかり下側にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0033] 好ましい一態様によれば、前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80%は、着用者の臀部の頂点よりも上側の領域と重なるように配置されてよい。後サイド部の高収縮領域が臀部の頂点よりも上側の斜面に引っかかり下側にずれ難くなり、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0034] 好ましい一態様によれば、前記前胴回り域と前記後胴回り域との間を延び、前記幅方向における中心を挟んで両側に配置された一对の防漏カフと、を有し、前記後胴回り域における一对の防漏カフどうしの距離は、前記前胴回り域における一对の防漏カフどうしの距離よりも長くてよい。背側での排泄物の収容スペースを広げることができる。

[0035] 好ましい一態様によれば、前記後中央部は、前記高収縮領域と、前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に位置し、かつ前記後中央部の平均の収縮力よりも低い低収縮領域と、を有してよい。後中央部において低収縮領域の高収縮領域側への移動を抑制しつつ高収縮領域のフィット性を維持し易い。加えて、後中央部において低収縮領域よりも長手方向の外側に高収縮領域が配置されているため、上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。また、高収縮領域が低収縮領域よりも収縮し、高収縮領域の幅方向の長さが低収縮領域の幅方向の長さよりも短くなる。よって、後胴回り域が身体の凹みに沿った形状となるため、後胴回り域が身体によりフィットし易くなる。

[0036] 好ましい一態様によれば、前記後中央部の前記低収縮領域の平均の収縮力は、前記後中央部の前記高収縮領域の平均の収縮力の0%～60%であって

よい。後中央部における臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分以外の領域（臀部の頂点）に対する締め付けを抑制しつつ、吸収性物品の引き上げ効果を発揮し易い。よって、着用時における臀部の違和感を抑制しつつ、吸収性物品全体のずれ下がりにより抑制できる。

[0037] 好ましい一態様によれば、前記前胴回り域には、前記幅方向に伸縮する前伸縮性部材が設けられており、前記前伸縮性部材は、前記前伸縮性部材の前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲しており、前記前伸縮性部材は、前記前中央部の前記高収縮領域及び前記前サイド部の前記高収縮領域と重なる領域に配置されてよい。前中央部の高収縮領域及び前サイド部の高収縮領域は、前伸縮性部材によって腹部の下端の凹みによりフィットし易くなる。よって、吸収性物品全体の長手方向のずれ下がりにより抑制できる。

[0038] （２）吸収性物品の全体概略構成

以下、図面を参照して、実施形態に係る吸収性物品について説明する。なお、以下の図面の記載において、同一又は類似の部分には、同一又は類似の符号を付している。ただし、図面は模式的なものであり、各寸法の比率等は現実のものとは異なることに留意すべきである。したがって、具体的な寸法等は、以下の説明を参酌して判断すべきである。また、図面相互間においても互いの寸法の関係や比率が異なる部分が含まれ得る。

[0039] 吸収性物品は、テープ型であってもよいし、パンツ型であってもよい。吸収性物品は、使い捨ておむつであってもよいし、ショーツ型生理用ナプキンであってもよい。第１実施形態の吸収性物品は、パンツ型の使い捨ておむつである。図１は、本実施形態に係る使い捨ておむつ１０の模式平面図である。図１に示す模式平面図は、後述するサイド接合部６０を展開した状態において吸収性物品１０を皺が形成されない状態まで伸長させた伸長状態を示している。

[0040] 吸収性物品１０は、互いに直交する長手方向Ｌ及び幅方向Ｗを有する。長手方向Ｌは、身体前側と身体後側とに延びる方向によって規定される。言い

換えると、長手方向Lは、展開された吸収性物品10において前後に延びる方向である。また、吸収性物品10は、長手方向Lと幅方向Wの両方の直交する厚み方向を有する。

[0041] 吸収性物品10は、前胴回り域S1と、後胴回り域S2と、股下域S3と、を有する。前胴回り域S1は、着用者の前胴回り（腹部）に対向する領域である。後胴回り域S2は、着用者の後胴回り（背部）に対向する領域である。股下域S3は、着用者の股下に位置し、前胴回り域S1と後胴回り域S2との間に配置された領域である。

[0042] 本実施形態では、吸収性物品10は、前胴回り部材20と、後胴回り部材30と、吸収性本体40と、を有してよい。前胴回り部材20は、前胴回り域S1に配置されている。後胴回り部材30は、後胴回り域S2に配置されている。前胴回り部材20及び後胴回り部材30は、例えば不織布のようなシートから構成されていてよい。

[0043] 幅方向Wにおける前胴回り域S1の外側部と、幅方向Wにおける後胴回り域S2の外側部と、が接合されたサイド接合部60が設けられている。サイド接合部60は、幅方向Wにおける前胴回り域S1の端部と、幅方向Wにおける後胴回り域S2の端部とを互いに係止した部分によって規定される。

[0044] 図5に示すように、サイド接合部60が形成された状態で、吸収性物品10には、着用者の胴が通される胴回り開口部62と、着用者の脚がそれぞれ挿入される一対の脚回り開口部66と、が形成される。胴回り開口部62は、前胴回り域S1の前端縁と、後胴回り域S2の後端縁とによって規定されていてよい。

[0045] ここで、図1は、サイド接合部60における接合を解除し、吸収性物品10を展開した状態を示している。サイド接合部60は、前胴回り部材20及び後胴回り部材30のそれぞれにおいて、長手方向Lに沿って延びてよい。この場合、前胴回り域S1と股下域S3との境界は、前胴回り部材20に設けられたサイド接合部60の後端縁によって規定されていてよい。同様

に、後胴回り域 S 2 と股下域 S 3 との境界は、後胴回り部材 3 0 に設けられたサイド接合部 6 0 の前端縁によって規定されていてよい。

[0046] 後胴回り域 S 2 には、幅方向 W に伸縮可能な後伸縮性部材 3 2 が配置されていてよい。後伸縮性部材 3 2 は、例えば、幅方向 W に伸縮可能な糸ゴム、又は幅方向 W に伸縮可能な弾性シートによって構成されていてよい。この代わりに、後伸縮性部材 3 2 は、例えば伸縮可能なシートにより構成された後胴回り部材 3 0 自体によって構成されていてよい。本実施の形態の後伸縮性部材 3 2 は、後胴回り部材 3 0 自体の伸縮可能なシートと、後伸縮性部材 3 2 と、によって構成されている。

[0047] 前胴回り域 S 1 には、幅方向 W に伸縮可能な前伸縮性部材 2 2 が形成されていてよい。前伸縮性部材 2 2 は、例えば、幅方向 W に伸縮可能な糸ゴム、又は幅方向 W に伸縮可能な弾性シートによって構成されていてよい。この代わりに、前伸縮性部材 2 2 は、例えば伸縮可能なシートにより構成された前胴回り部材 2 0 自体によって構成されていてよい。本実施の形態の前伸縮性部材 2 2 は、糸ゴムによって構成されている。

[0048] 吸収性本体 4 0 は、前胴回り部材 2 0 と後胴回り部材 3 0 とに跨って配置されている。すなわち、吸収性本体 4 0 は、前胴回り域 S 1、後胴回り域 S 2 及び股下域 S 3 にわたって延びている。吸収性本体 4 0 は、前胴回り部材 2 0 及び後胴回り部材 3 0 とは別体として構成されていてよい。この場合、吸収性本体 4 0 は、前胴回り域 S 1 及び後胴回り域 S 2 において、それぞれ前胴回り部材 2 0 及び後胴回り部材 3 0 と接合されていてよい。

[0049] 吸収性本体 4 0 は、少なくとも吸収コア 5 0 を含んでいる。吸収コア 5 0 は、例えば粉碎パルプもしくは高吸収性ポリマー（SAP）、又はこれらの混合物を含んでいてよい。吸収コア 5 0 は、少なくとも股下域 S 3 に配置されている。好ましくは、吸収コア 5 0 は、長手方向 L において、前胴回り域 S 1 から後胴回り域 S 2 にわたって延びていてよい。吸収コア 5 0 は、コアラップによって覆われていてよい。さらに、吸収性本体 4 0 は、吸収コアの肌面側に位置する肌面シート 4 1 と、吸収コア 5 0 の非肌面側に位置する非

肌面シート（図示せず）と、幅方向Wにおける肌面シート41の両側部を覆うサイドシート43と、を有してよい。

[0050] 吸収性本体40は、一対の防漏カフ46を有してよい。一対の防漏カフ46は、前胴回り域S1と後胴回り域S2との間を延びており、幅方向Wにおける吸収性物品10の中心を挟んで両側に配置されている。一対の防漏カフ46は、着用者の肌に向かって立ち上がり可能に構成されている。

[0051] 防漏カフ46は、サイドシート43と、サイドシート43に設けられたサイド弾性部材と、によって構成されてよい。幅方向Wにおけるサイドシート43の内側縁は、肌面シート41に接合されておらず、肌面シート41から立ち上がり可能な自由端を構成する。防漏カフ46は、起立支点46a及び起立頂点46bを有する。起立支点46a及び起立頂点46bは、前胴回り域S1から後胴回り域S2にわたって長手方向Lに延びている。

[0052] 起立支点46aは、起立しない点であり、防漏カフ46の根本に相当する。本実施形態では、起立支点46aは、サイドシート43と肌面シート41の接合部46Rのうちの幅方向Wの内側の縁線に相当する。起立頂点46bは、防漏カフ46が立ち上がったときの防漏カフ46の頂点に相当する。すなわち、起立頂点46bは、防漏カフ46の自由端である。したがって、防漏カフ46は、起立支点46aから起立頂点46bに向かって立ち上がるように構成されている。

[0053] 防漏カフ46の起立支点46aは、後胴回り域S2において、後伸縮性部材32と厚み方向で重なってよい。後胴回り域S2における一対の防漏カフ46どうしの距離は、前胴回り域S1における一対の防漏カフ46どうしの距離よりも長い。後胴回り域S2における一対の防漏カフ46どうしの距離は、幅方向Wにおける一対の防漏カフ46の起立支点46aどうしの距離によって規定されていてもよい。一対の防漏カフ46の起立支点46aどうしの距離は、排泄物を収容する収容スペースの大きさを規定する。この収容スペースが、後胴回り域S2にかけて広がっているため、後胴回り域S2において排泄物（特に糞便）が漏れ難くなる。背側での排泄物の収容スペースを

広げることができ、後伸縮性部材によって後胴回り域が幅方向に収縮する構成にあって、防漏カフによって体液の漏れを抑制できる。

[0054] この代わりに、後胴回り域S 2における一对の防漏カフ4 6 どうしの距離は、幅方向Wにおける一对の防漏カフ4 6 の起立頂点4 6 b どうしの距離によって規定されていてもよい。防漏カフ4 6 の起立頂点4 6 b どうしの距離が後胴回り域S 2にかけて広がっているため、背側における防漏カフの開口の幅を広く形成できる。これにより、後伸縮性部材によって後胴回り域が幅方向に収縮する構成にあって、防漏カフによって体液の漏れを抑制できる。また、吸収コアと後伸縮性部材が重なる構成においては、後伸縮性部材3 2 の収縮によって吸収コアの幅方向の長さが短くなっても、背側での排泄物の収容スペースを広げることにより、体液の漏れを抑制できる。

[0055] 図2は、吸収性物品の前胴回り域S 1における領域及び後胴回り域S 2における領域を模式的に示した図である。図2 (a)は、前胴回り域を示しており、図2 (b)は、後胴回り域を示している。前胴回り域S 1は、前胴回り域S 1は、幅方向Wの中央に位置する前中央部F Cと、前中央部F Cよりも幅方向Wの外側に位置する前サイド部F Sと、を有してよい。前中央部F Cの外側縁は、前サイド部F Sの内側縁に一致する。前サイド部は、前中央部の左右両側に位置する。後胴回り域S 2は、幅方向Wの中央に位置する後中央部R Cと、後中央部R Cよりも幅方向Wの外側に位置する後サイド部R Sと、を有してよい。後中央部R Cの外側縁は、後サイド部R Sの内側縁に一致する。前サイド部F Sの外側縁及び後サイド部R Sの外側縁は、パンツ型の吸収性物品にあっては、サイド接合部6 0の内側縁である。

[0056] 本発明の前中央部F C、前サイド部F S、後中央部R C及び後サイド部R Sは、次の方法によって規定できる。まず、吸収性物品1 0がサイド接合部6 0を有する場合には、サイド接合部6 0を解除し、吸収性物品1 0を展開する。次に、吸収性物品を伸長状態まで伸長させる。伸長状態とは、弾性部材の収縮等による皺が形成されていない状態である。当該伸長状態において前胴回り域S 1の幅方向の長さ及び後胴回り域S 2の幅方向の長さを測定す

る。次いで、前胴回り域 S 1 及び後胴回り域 S 2 を一定幅に伸長させる。前胴回り域 S 1 の一定幅は、伸長状態の前胴回り域 S 1 の幅方向の長さに対する 60% の長さである。後胴回り域 S 2 の一定幅は、伸長状態の後胴回り域 S 2 の幅方向の長さに対する 60% の長さである。一定幅の前胴回り域において、幅方向の中心を含み、かつ幅方向の長さが 55% の領域を前中央部とし、前中央部と前胴回り域の外側縁との間の領域を前サイド部とする。前サイド部の幅方向の長さは、一定幅の 22.5% となる。また、一定幅の後胴回り域において、幅方向の中心を含み、かつ幅方向の長さが 55% の領域を後中央部とし、後中央部と後胴回り域の外側縁との間の領域を後サイド部とする。後サイド部の幅方向の長さは、一定幅の 22.5% となる。

[0057] 前中央部 F C は、前中央部 F C の長手方向 L の全長を 10 等分した複数の前中央領域を有する。また、前サイド部 F S は、前サイド部 F S の長手方向 L の全長を 10 等分した複数の前サイド領域を有する。前中央領域及び前サイド領域は、それぞれ、前胴回り域 S 1 の前端縁 S 1 F から 10% 後方までの第 1 領域、10% から 20% 後方までの第 2 領域、20% から 30% 後方までの第 3 領域、30% から 40% 後方までの第 4 領域、40% から 50% 後方までの第 5 領域、50% から 60% 後方までの第 6 領域、60% から 70% 後方までの第 7 領域、70% から 80% 後方までの第 8 領域、80% から 90% 後方までの第 9 領域及び 90% から 100% 後方までの第 10 領域を有する。

[0058] 後中央部 R C は、後中央部 R C の長手方向 L の全長を 10 等分した複数の後中央領域を有する。また、後サイド部 R S は、後サイド部 R S の長手方向 L の全長を 10 等分した複数の後サイド領域を有する。後中央領域及び後サイド領域は、それぞれ、後胴回り域 S 2 の後端縁 S 2 R から 10% 前方までの第 1 領域、10% から 20% 前方までの第 2 領域、20% から 30% 前方までの第 3 領域、30% から 40% 前方までの第 4 領域、40% から 50% 前方までの第 5 領域、50% から 60% 前方までの第 6 領域、60% から 70% 前方までの第 7 領域、70% から 80% 前方までの第 8 領域、80% から

ら90%前方までの第9領域及び90%から100%前方までの第10領域を有する。

[0059] 前中央部F Cの前中央領域（第1領域から第10領域）は、幅方向Wの収縮力がそれぞれ異なってよく、前サイド部F Sの前サイド領域（第1領域から第10領域）は、幅方向Wの収縮力がそれぞれ異なってよい。また、後中央部R Cの後中央領域（第1領域から第10領域）は、幅方向Wの収縮力がそれぞれ異なってよく、後サイド部R Sの後サイド領域（第1領域から第10領域）は、幅方向Wの収縮力がそれぞれ異なってよい。吸収性物品10は、後胴回り域S 2及び前胴回り域のS 1領域毎に適した収縮力に設計されており、身体の形状に合うようにフィットすることで、ずれ下がり難く構成されている。

[0060] また、吸収性物品全体の幅方向の全体収縮力は、6 N以下である。吸収性物品全体の全体収縮力を上げると、吸収性物品全体が下がることを抑制できるが、身体全体が締め付けられ、違和感が生じ易い。吸収性物品全体の幅方向の全体収縮力が6 N以下であるため、着用時の違和感が少ない。前胴回り域S 1及び後胴回り域S 2の領域毎に収縮力を規定することにより、身体の凹凸に沿うように吸収性物品が変形したり、身体の凸部に密着せずに凹部に対してフィットしたりして、吸収性物品が下がることを抑制できる。よって、着用時の違和感を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる。なお、各領域の収縮力は、例えば、伸縮性部材の配置や伸長率によって異ならせてもよいし、各領域に配置する吸収コア等の部材の配置によって異ならせてもよい。より具体的には、幅方向に伸縮する伸縮性部材を少なくとも第2領域に配置し、第2領域の収縮率を高く構成してよい。これに代えて、第1領域、第2領域及び第3領域に幅方向に伸縮する伸縮性部材を配置し、第2領域の伸縮性部材の伸縮力を最も高く構成してよい。

[0061] 表1に、各領域の幅方向の収縮力を示す。

[表1]

	前中央部			前サイド部			後サイド部			後中央部		
	収縮力	平均収縮力	高収縮領域	収縮力	平均収縮力	高収縮領域	収縮力	平均収縮力	高収縮領域	収縮力	平均収縮力	高収縮領域
第1領域	0.081	0.119		0.303	0.474		0.673	0.333	高収縮領域	0.348	0.191	高収縮領域
第2領域	0.065			0.333			0.424		高収縮領域	0.234		高収縮領域
第3領域	0.063			0.363			0.382		高収縮領域	0.263		高収縮領域
第4領域	0.066			0.425			0.388		高収縮領域	0.267		高収縮領域
第5領域	0.063			0.605		高収縮領域	0.364		高収縮領域	0.259		高収縮領域
第6領域	0.056			0.682		高収縮領域	0.287			0.170		
第7領域	0.317		高収縮領域	0.739		高収縮領域	0.284			0.168		
第8領域	0.289		高収縮領域	0.829		高収縮領域	0.341			0.191		
第9領域	0.192		高収縮領域	0.453		高収縮領域	0.099			0.002		
第10領域	0.005			0.004			0.103			0.004		

[0062] 表1に示すように、前中央部FCは、前中央領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が長手方向Lに連続した高収縮領域FC11を有する。本実施の形態の前中央部FCの高収縮領域FC11は、第7領域から9領域によって構成されている。また、前サイド部FSは、前サイド領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が長手方向に連続した高収縮領域FS11を有する。本実施の形態の前サイド部FSの高収縮領域FS11は、第5領域から第8領域によって構成されている。

[0063] 後中央部RCは、後中央領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が長手方向に連続した高収縮領域RC11を有する。本実施の形態の後中央部RCの高収縮領域RC11は、第1領域から第5領域によって構成されている。また、後サイド部RSは、後サイド領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が長手方向に連続した高収縮領域RS11を有する。本実施の形態の後サイド部RSの高収縮領域RS11は、第1領域から第5領域によって構成されている。

[0064] 図3から図5は、吸収性物品を着用した着用者が寝た状態を模式的に示した図である。図3～図5において、着用者の身体のラインを一点鎖線BLで示す。図3から図5に示すように、前中央部FCの高収縮領域FC11は、前サイド部FSの高収縮領域FS11と幅方向Wに隣接している。前サイド部FSの高収縮領域FS11は、後サイド部RSの高収縮領域RS11と幅方向Wに隣接している。後サイド部RSの高収縮領域RS11は、後中央部RCの高収縮領域RC11と幅方向に隣接している。なお、幅方向に隣接する構成は、一方の領域の少なくとも一部と他方の領域の少なくとも一部と隣

接していればよく、各領域の全域が隣接していなくてよい。

[0065] 前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 が前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 に幅方向 W に連なっているため、前中央部 F C と前サイド部 F S において、身体に対して密着する領域が幅方向 W に連続する。また、前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 が後サイド部 R S の高収縮領域 R S 1 1 に幅方向 W に連なっているため、前サイド部 F S と後サイド部 R S において、身体に対して密着する領域が幅方向 W に連続する。更に、後サイド部 R S の高収縮領域 R S 1 1 が後中央部 R C の高収縮領域 R C 1 1 に幅方向 W に連なっているため、後サイド部 R S と後中央部 R C において、身体に対して密着する領域が幅方向に連続する。このように、前胴回り域 S 1 から後胴回り域 S 2 に亘って高収縮領域が幅方向 W に連続するため、当該高収縮領域が着用者の腰周りを一周覆うように配置される。腰周りを一周覆うように配置される高収縮領域によって身体に対して密着し、吸収性物品のずれ下がり抑制できる。また、高収縮領域以外の領域で身体に密着しないため、吸収性物品全体に亘って身体に密着せず、着用時の違和感が少ない。後胴回り域及び前胴回り域の領域毎に収縮力を規定し、吸収性物品が下がることを抑制することにより、装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる。

[0066] 次いで、着用者の腹側における装着状態について説明する。図 3 に示すように、着用者の腹側には、一般的に、腹部の下端に幅方向 W に延びる凹みが形成される。着用者の腹部の幅方向の中央の凹みは、腹部の下端に位置し、腹部の側部（幅方向の外側）の凹みは、腰骨に位置している。よって、着用者の腹側における身体の凹みは、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって上方に湾曲しており、特に乳幼児においてははっきりと形成され易い。本出願人が鋭意検討を重ねた結果、前胴回り域の所定の領域が腹部の下端の凹みに対向して配置されることがわかった。着用者の腹部の下端の凹みは、前中央部 F C において第 7 領域から第 9 領域と対向し、前サイド部 F S において第 5 領域から第 8 領域と対向して配置される。

[0067] 前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 は、前中央部 F C の高収縮領域 F C

1 1 よりも長手方向外側（前側）に延出してよい。着用者の身体の凹みは、腹側において、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって上方に向かっている。前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 が前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 よりも長手方向外側（前側）に延出しているため、腹部の凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれ難くなる。

[0068] 変形例において、前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 は、前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 より長手方向内側（股下域側）に延出してよい。着用者の身体の凹みは、腹側において、幅方向の中央が幅方向の外側よりも股下側に延びている。前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 が前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 よりも長手方向内側に延出していることにより、腹部の凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれにくくなる。

[0069] 前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 の長手方向 L の長さは、前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 の長手方向 L の長さよりも長くてよい。着用者の腹部の幅方向の中央の凹みは、腹部の下端に位置し、腹部の幅方向の外側の凹みは、腰骨に位置している。一般的に、腹部の幅方向の中央の凹みの長手方向の長さは、腹部の幅方向の外側の凹みの長手方向の長さよりも短い。前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 の長手方向の長さが比較的短いことにより、腹部の下端の凹みに密着しつつ、腹部の膨らんだ部分を締め付けることを抑制できる。また、腹部の膨らんだ部分に高収縮領域が配置されないことにより、高収縮領域が腹部の膨らんだ部分から腹部の凹み側にずれることを抑制し、吸収性物品の長手方向のずれを抑制できる。

[0070] 前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 の少なくとも一部は、前中央部 F C の前端縁から前中央部 F C の長手方向の全長に対する 60～90%に位置してよい。一般的に、前中央部 F C の前端縁から前中央部 F C の長手方向の全長に対する 60～90%の領域（第7領域から第9領域）は、着用者の腹部の下端の凹みと対向して配置される。よって、前中央部 F C の高収縮領域 F C

11が腹部の下端の凹みにフィットし、吸収性物品10が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品10のずれ下がりにより抑制できる。

[0071] より好ましくは、前中央部FCの高収縮領域FC11は、前中央部FCの前端縁から前中央部FCの長手方向の全長に対する60～90%のみに位置してよい。前中央部FCの高収縮領域FC11が腹部の下端の凹みに対応する領域のみに位置するため、腹部の下端の凹みに高収縮領域FC11が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品10のずれ下がりにより抑制できる。また、腹部の下端の凹み以外の部分（腹部の膨らんだ部分等）に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0072] 前中央部FCの高収縮領域FC11の平均の収縮力は、前中央部FC全体の平均の収縮力の2.0倍以上であってよい。前中央部FCの高収縮領域FC11は、前中央部FCにおいてより収縮し、幅方向Wの寸法が短くなる。よって、前胴回り域S1は、腹部の下端の凹みに配置される高収縮領域が周囲の領域よりも凹む形状となる。前胴回り域S1が身体の凹みに沿った形状となるため、前胴回り域S1が身体によりフィットし易くなる。前胴回り域S1を身体に対して密着させずに、前胴回り域S1を身体に沿わせてフィットさせることができる。よって、装着感を向上できる。加えて、体液の吸収によって吸収性物品の重量が重くなった場合においても、吸収性物品がずれ下がり難くなる。前中央部FC全体の平均の収縮力は、前中央部FCの第1領域から第10領域の収縮力の平均値である。

[0073] より好ましくは、前中央部FCの高収縮領域FC11の平均の収縮力は、前中央部FC全体の平均の収縮力の2.5倍以上であってよい。身体の凹みに対して高収縮領域FC11がフィットする効果及び身体の凹み以外の部分に対する締め付けを抑制し、装着感を向上させる効果をより得られる。

[0074] 前中央部FCは、高収縮領域FC11と、高収縮領域FC11よりも長手方向内側に位置し、かつ前中央部FCの平均の収縮力よりも低い低収縮領域FC12と、を有してよい。前中央部FCにおいて低収縮領域FC12の高収縮領域FC11側への移動を抑制しつつ高収縮領域FC11のフィット性

を維持し易い。加えて、低収縮領域 F C 1 2 よりも長手方向 L の外側に高収縮領域 F C 1 1 が配置されているため上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。

[0075] より好ましくは、前中央部 F C の低収縮領域 F C 1 2 の平均収縮力は、前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 の平均収縮力の 0 ~ 2 0 % であってよい。高収縮領域 F C 1 1 のフィット性をより維持し易い。なお、任意の一の領域の収縮力に対する任意の他の領域の収縮力が 0 % とは、限りなく 0 % に近い微少の値であることを意味し、例えば、0. 0 0 0 1 % を含んでいる。

[0076] 高収縮領域 F C 1 1 よりも長手方向の内側に低収縮領域 F C 1 2 が配置されるとともに、高収縮領域 F C 1 1 よりも長手方向の外側に第 2 低収縮領域 F C 1 3 が配置されてもよい。第 2 低収縮領域 F C 1 3 は、前中央部 F C の平均の収縮力よりも低い収縮力を有する。高収縮領域 F C 1 1 の収縮力が、当該高収縮領域 F C 1 1 を長手方向に挟んで配置される領域の収縮力よりも高いため、高収縮領域 F C 1 1 が腹部の下端の凹みにフィットし、前胴回り域 S 1 が長手方向 L にずれ難くなり、吸収性物品全体がずれ下がることを抑制できる。また、腹部の下端付近は、腹回りの寸法が大きく変化する領域である。高収縮領域 F C 1 1 を挟んで配置される低収縮領域 F C 1 2 及び第 2 低収縮領域 F C 1 3 は、高収縮領域 F C 1 1 よりも腹回りの寸法が長い部位に配置され易い。低収縮領域 F C 1 2 及び第 2 低収縮領域 F C 1 3 の幅方向 W の収縮力が高いと、低収縮領域 F C 1 2 及び第 2 低収縮領域 F C 1 3 が高収縮領域 F C 1 1 側にずれ、高収縮領域 F C 1 1 に当たる部分に収縮力が集中するおそれがある。しかし、低収縮領域 F C 1 2 及び第 2 低収縮領域 F C 1 3 は、高収縮領域 F C 1 1 よりも低い収縮力であり、高収縮領域 F C 1 1 側にずれ難いため、高収縮領域 F C 1 1 に当たる部分に収縮力が集中することを抑制できる。

[0077] 第 2 低収縮領域 F C 1 3 の収縮力は、高収縮領域 F C 1 1 の収縮力の 1 0 ~ 4 0 % であってよい。このような範囲によれば、低収縮領域 F C 1 2 及び第 2 低収縮領域 F C 1 3 が高収縮領域 F C 1 1 側によりずれ難く、高収縮領

域 F C 1 1 に当たる部分に収縮力が集中することを抑制できる。

[0078] 低収縮領域 F C 1 2 の収縮力は、第 2 低収縮領域 F C 1 3 の収縮力よりも低くてよい。低収縮領域 F C 1 2 の収縮力が第 2 低収縮領域 F C 1 3 の収縮力よりも低いことにより、低収縮領域 F C 1 2 において吸収コア 5 0 の幅を確保し易い。排泄口に近い低収縮領域 F C 1 2 側の吸収コア 5 0 の幅を確保することにより、吸収コア 5 0 による体液の吸収機能を確保できる。また、第 2 低収縮領域 F C 1 3 は、高収縮領域よりも前端縁側に位置し、吸収コアと重なり難い。第 2 低収縮領域 F C 1 3 の収縮力を比較的高くすることにより、吸収コア 5 0 の幅を確保しつつ、身体に対するフィット性を確保できる。

[0079] 前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 の少なくとも一部は、前サイド部 F S の前端縁から前サイド部の長手方向の全長に対する 4 0 ～ 8 0 %（第 5 領域から第 8 領域）に位置してよい。一般的に、前サイド部 F S の前端縁から前サイド部の長手方向の全長に対する 4 0 ～ 8 0 % の領域は、着用者の腰骨に対向して配置される。よって、前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 が腹部の凹みにフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0080] より好ましくは、前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 は、前サイド部 F S の前端縁から前サイド部 F S の長手方向の全長に対する 4 0 ～ 8 0 %（第 5 領域から第 8 領域）のみに位置してよい。高収縮領域 F S 1 1 が腹部の凹みに対応する領域のみに位置するため、腹部の凹みに高収縮領域 F S 1 1 が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、腹部の凹み以外の部分に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0081] 前サイド部 F S は、高収縮領域 F S 1 1 と、高収縮領域 F S 1 1 よりも長手方向内側に位置し、かつ前サイド部 F S の平均の収縮力よりも低い低収縮領域 F S 1 2 と、を有してよい。前サイド部 F S において低収縮領域 F S 1 2 の高収縮領域 F S 1 1 側への移動を抑制しつつ高収縮領域 F S 1 1 のフィ

ット性を維持し易い。加えて、低収縮領域 F S 1 2 よりも長手方向 L の外側に高収縮領域 F S 1 1 が配置されているため上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。

[0082] より好ましくは、前サイド部 F S の低収縮領域 F S 1 2 の平均収縮力は、前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 の平均収縮力の 0 ~ 4 5 % であってよい。高収縮領域 F S 1 1 のフィット性をより維持し易い。

[0083] 高収縮領域 F S 1 1 よりも長手方向の内側に低収縮領域 F S 1 2 が配置されるとともに、高収縮領域 F S 1 1 よりも長手方向の外側に第 2 低収縮領域 F S 1 3 が配置されてもよい。第 2 低収縮領域 F S 1 3 は、前サイド部 F S の平均の収縮力よりも低い収縮力を有する。高収縮領域 F S 1 1 の収縮力が、当該高収縮領域 F S 1 1 を長手方向に挟んで配置される領域の収縮力よりも高いため、高収縮領域 F S 1 1 が腹部の下端の凹みにフィットし、前胴回り域 S 1 が長手方向 L にずれ難くなり、吸収性物品全体がずれ下がることを抑制できる。また、腹部の下端付近は、腹回りの寸法が大きく変化する領域である。高収縮領域 F S 1 1 を挟んで配置される低収縮領域 F S 1 2 及び第 2 低収縮領域 F S 1 3 は、高収縮領域 F S 1 1 よりも腹回りの寸法が長い部位に配置され易い。低収縮領域 F S 1 2 及び第 2 低収縮領域 F S 1 3 の幅方向 W の収縮力が高いと、低収縮領域 F S 1 2 及び第 2 低収縮領域 F S 1 3 が高収縮領域 F S 1 1 側にずれ、高収縮領域 F S 1 1 に当たる部分に収縮力が集中するおそれがある。しかし、低収縮領域 F S 1 2 及び第 2 低収縮領域 F S 1 3 は、高収縮領域 F S 1 1 よりも低い収縮力であり、高収縮領域 F S 1 1 側にずれ難いため、高収縮領域 F S 1 1 に当たる部分に収縮力が集中することを抑制できる。

[0084] 第 2 低収縮領域 F S 1 3 の収縮力は、高収縮領域 F S 1 1 の収縮力の 3 5 ~ 6 5 % であってよい。このような範囲によれば、低収縮領域 F S 1 2 及び第 2 低収縮領域 F S 1 3 が高収縮領域 F S 1 1 側によりずれ難く、高収縮領域 F S 1 1 に当たる部分に収縮力が集中することを抑制できる。

[0085] 低収縮領域 F S 1 2 の収縮力は、第 2 低収縮領域 F S 1 3 の収縮力よりも

低くてよい。低収縮領域 F S 1 2 の収縮力が第 2 低収縮領域 F S 1 3 の収縮力よりも低いことにより、低収縮領域 F S 1 2 において吸収コア 5 0 の幅を確保し易い。排泄口に近い低収縮領域 F S 1 2 側の吸収コア 5 0 の幅を確保することにより、吸収コア 5 0 による体液の吸収機能を確保できる。

[0086] 前伸縮性部材 2 2 は、前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 及び前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 と重なる領域に配置されてよい。前中央部 F C の高収縮領域 F C 1 1 及び前サイド部 F S の高収縮領域 F S 1 1 は、前伸縮性部材 2 2 によって腹部の下端の凹みによりフィットし易くなる。よって、吸収性物品全体の長手方向のずれ下がりにより抑制できる。前伸縮性部材 2 2 は、前伸縮性部材 2 2 の幅方向 W の中央から幅方向 W の外側に向かって前側に湾曲してよい。前伸縮性部材 2 2 によって前胴回り域 S 1 を上方かつ後胴回り域 S 2 側に向けて引き上げ、吸収性物品 1 0 のずれ下がりにより抑制できる。

[0087] 次いで、着用者の背側における装着状態について説明する。図 4 に示すように、着用者の背側は、臀部によって膨らんでいる。臀部の頂点よりも上側において臀部が膨らんだ部分は、臀部の頂点よりも胴回りの寸法が短く、臀部の膨らんだ部分よりも上側は、更に胴回りの寸法が短い。本出願人が鋭意検討を重ねた結果、第 1 領域から第 8 域は、臀部の頂点よりも上側に対向して配置されることがわかった。着用者の臀部の膨らみの頂点及び頂点よりも股下側には、第 9 領域及び第 1 0 領域が対向して配置される。着用者の背側において伸縮材が引っかかり安定しやすい臀部の頂点よりも上側かつ胴回り寸法の短い領域は、背側において、幅方向の中央から幅方向の外側に向かって幅方向 W に沿って延びている。

[0088] 後サイド部 R S の高収縮領域 R S 1 1 の少なくとも一部は、後サイド部 R S の後端縁から後サイド部 R S の長手方向 L の全長に対する 0 ~ 8 0 % (第 1 領域から第 8 領域) に位置してよい。一般的に、後サイド部 R S の前端縁から後サイド部 R S の長手方向 L の全長に対する 0 ~ 8 0 % の領域は、着用者の臀部の頂点よりも上側の部位に対向して配置される。よって、高収縮領

域RS11が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、より好適には、後サイド部RSの高収縮領域RS11の少なくとも一部は、後サイド部RSの後端縁から後サイド部RSの長手方向Lの全長に対する0～50%（第1領域から第5領域）に位置してよい。一般的に、後サイド部RSの前端縁から後サイド部RSの長手方向Lの全長に対する0～50%の領域は、着用者の臀部の膨らみよりも上側の部位に対向して配置される。よって、高収縮領域RS11が臀部の膨らみよりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0089] より好ましくは、後サイド部RSの高収縮領域RS11は、後サイド部RSの後端縁から後サイド部RSの長手方向の全長に対する0～80%のみに位置してよい。高収縮領域RS11が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に対応する領域のみに位置するため、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に高収縮領域RS11が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分以外の領域に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0090] また、後中央部RCの高収縮領域RC11の少なくとも一部は、後中央部RCの後端縁から後中央部RCの長手方向の全長に対する0～80%に位置してよい。一般的に、後中央部RCの前端縁から後中央部RCの長手方向の全長に対する0～80%の領域は、着用者の臀部の頂点よりも上側の領域に対向して配置される。よって、高収縮領域RC11が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、より好適には、後中央部RCの高収縮領域RC11の少なくとも一部は、後中央部RCの後端縁から後中央部RCの長手方向の全長に対する0～50%に位置してよい。一般的に、後中央部RCの前端縁から後中央部RCの長手方向の全長に対する0～5

0%の領域は、着用者の臀部の膨らみよりも上側の領域に対向して配置される。よって、高収縮領域RC11が臀部の膨らみよりも胴回り寸法が短い部分にフィットし、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。

[0091] 好ましい一態様によれば、後中央部RCの高収縮領域RC11は、後中央部RCの後端縁から後中央部RCの長手方向Lの全長に対する0~80%のみに位置してよい。高収縮領域RC11が臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に対応する領域のみに位置するため、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分に高収縮領域が配置され、吸収性物品が長手方向にずれ難くなり、吸収性物品のずれ下がりにより抑制できる。また、臀部の頂点よりも胴回り寸法が短い部分以外の領域に高収縮領域が配置されないため、装着感を向上できる。

[0092] 後中央部RCの高収縮領域RC11は、臀部の膨らみの頂点を超えて、平らな形状を含む部位と対向して配置されてよい。後中央部RCの高収縮領域RC11には、幅方向Wに伸縮する後伸縮性部材32が配置されてよい。高収縮領域RC11は、後伸縮性部材32によって収縮し、身体にフィットし易い。

[0093] 後中央部RCは、高収縮領域RC11と、高収縮領域RC11よりも長手方向内側に位置し、かつ後中央部RCの平均の収縮力よりも低い低収縮領域RC12と、を有してよい。後中央部RCにおいて低収縮領域RC12の高収縮領域RC11側への移動を抑制しつつ高収縮領域RC11のフィット性を維持し易い。加えて、後中央部RCにおいて低収縮領域RC12よりも長手方向の外側に高収縮領域RC11が配置されているため、上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。後中央部RCの低収縮領域RC12の平均の収縮力は、後中央部RCの高収縮領域RC11の平均の収縮力の0%~60%であってよい。後中央部RCにおける臀部の頂点に対する締め付けを抑制しつつ、吸収性物品の引き上げ効果を発揮し易い。よって、着用時における臀部の違和感を抑制しつつ、吸収性物品全

体のずれ下がりにより抑制できる。

[0094] 後サイド部RSの高収縮領域RS11は、臀部の膨らみの頂点を超えて、平らな形状を含む部位と対向して配置される。後サイド部RSの高収縮領域RS11には、幅方向Wに伸縮する後伸縮性部材32が配置されてよい。高収縮領域RS11は、後伸縮性部材32によって収縮し、身体にフィットし易い。

[0095] 後サイド部RSは、高収縮領域RS11と、高収縮領域RS11よりも長手方向内側に位置し、かつ前サイド部の平均の収縮力よりも低い低収縮領域RS12と、を有してよい。後サイド部RSにおいて低収縮領域RS12の高収縮領域RS11側への移動を抑制しつつ高収縮領域RS11のフィット性を維持し易い。加えて、後サイド部RSにおいて低収縮領域RS12よりも長手方向の外側に高収縮領域RS11が配置されているため、上側に引き上げようとする力が作用し、吸収性物品全体がずれ下がり難くなる。後サイド部RSの低収縮領域RS12の平均の収縮力は、後サイド部RSの高収縮領域RS11の平均の収縮力の15%~70%であってよい。着用時における臀部の違和感を抑制しつつ、吸収性物品全体のずれ下がりにより抑制できる。

[0096] 後伸縮性部材32は、吸収コア50と重なる領域に配置されてよい。後中央部RCの高収縮領域RC11に配置された後伸縮性部材32によって吸収コア50が幅方向に収縮することにより、吸収コアの厚みが厚くなる。臀部の頂点よりも上側の凹んだ部位に吸収コア50がフィットすることにより、フィット性をより向上できる。

[0097] 吸収性物品の後胴回り域では、後中央部の後端縁側に高収縮領域が配置され、股下域に向かって収縮力の低い領域が配置され、後サイド部の後端縁側に高収縮領域が配置され、股下域に向かって収縮力の低い領域が配置されることが好ましい。また、高収縮領域以外の領域の収縮力は、高収縮領域の収縮力に対する20から60%であることが好ましい。当該構成によれば、臀部の膨らみよりも上側で身体にフィットするとともに、臀部の膨らみに対す

る締め付けを抑制できる。

[0098] 次いで、吸収性物品の全体の装着状態について説明する。図5に示すように、吸収性物品10は、前胴回り域S1の外側縁と後胴回り域S2の外側縁が接合されており、身体の腰回り全体を囲むように配置される。上述のように、着用者の身体は、背部において臀部の頂点よりも上側の部位が最も凹み、腹側において腹部の下端が最も凹む。後胴回り域S2の後サイド部RSでは、臀部の頂点よりも上側の部位に高収縮領域RS11が配置され、前胴回り域S1の前サイド部FSでは、腹部の下端の凹みと重なる位置に高収縮領域FS11が配置される。収縮力が高い領域によって、身体全周に亘って身体の凹んでいる部位を囲むように吸収性物品をフィットさせることができる。また、収縮力が高い領域は、腹側から背部にかけて上方に向かっている。着用者の腹部の膨らみを後方かつ上方に引き上げることにより、吸収性物品全体のずれ下がり抑制できる。

[0099] 後サイド部RSの高収縮領域RS11は、前サイド部FSの高収縮領域FS11よりも長手方向L外側に延出してよい。着用者の身体の凹みは、腹側から背部に向かって上方に延びている。後サイド部RSの高収縮領域RS11が前サイド部FSの高収縮領域FS11よりも長手方向L外側に延出しているため、腹部から背部に向かって上方に延びる凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれ難くなる。

[0100] 前サイド部FSの高収縮領域FS11は、後サイド部RSの高収縮領域RS11よりも長手方向L内側に延出してよい。着用者の身体の凹みは、背部から腹部に向かって股下側に延びている。前サイド部FSの高収縮領域FS11が後サイド部RSの高収縮領域RS11よりも長手方向L内側に延出しているため、背部から腹部に向かって股下側に延びる凹みに対応して高収縮領域が配置される。身体の凹みに沿って高収縮領域が配置されることにより、吸収性物品がずれにくくなる。

[0101] 後サイド部RSの高収縮領域RS11の長手方向Lの長さは、前サイド部

F S の高収縮領域 F S 1 1 の長手方向の長さよりも長くてよい。着用者の身体の側方から見た凹みは、腹部において腰骨に位置し、背部において臀部の頂点よりも上側に位置している。一般的に、腹部の凹みの長手方向の長さは、背部の凹みの長手方向の長さよりも短い。前サイド部の高収縮領域の長手方向の長さが比較的短いことにより、腹部の凹みに密着しつつ、腹部の凹み以外の部分を締め付けることを抑制できる。また、腹部の凹み以外の部分に高収縮領域が配置されないことにより、高収縮領域が腹部の凹み側にずれることを抑制し、吸収性物品の長手方向のずれを抑制できる。

[0102] 本実施形態において、各領域の「収縮力」は、以下の方法によって測定される。まず、各領域の収縮力を測定する際は、測定対象となる試験片を作成する。吸収性物品 1 0 がサイド接合部 6 0 を有する場合には、サイド接合部 6 0 を解除し、吸収性物品 1 0 を展開する。次に、吸収性物品を伸長させた伸長状態において幅方向の長さ及び長手方向の長さを計測し、前中央部と前サイド部の境界、及び後中央部と後サイド部の境界に線を引く。次いで、前胴回り域を長手方向に 1 0 分割した 1 0 個の試験片を切り出し、各試験片を前中央部と前サイド部の境界で切断する。また、同様に、後胴回り域を長手方向に 1 0 分割した 1 0 個の試験片を切り出し、各試験片を後中央部と後サイド部の境界で切断する。次に、切り出した試験片の両端部を引張試験器（インストロン）のチャック（挟持具）によって挟持する。このとき、前中央部及び後中央部の収縮力を測定する際は、チャック間の距離を 5 0 m m とする。前サイド部及び後サイド部の収縮力を測定する際は、チャック間の距離を 3 5 m m とする。また、吸収性物品の「収縮力」を測定する際は、吸収性物品のサイド接合部 6 0 を引張試験器のチャック（挟持具）によって挟持する。

[0103] 次に、幅方向 W におけるチャックの一方を固定した状態で、チャック間の距離を変えるようにチャックのもう一方を移動させる。このときのチャックの移動スピードは、3 0 0 m m / m i n とする。なお、チャックの移動方向を変えるタイミングは、最大伸長時の 9 5 % の地点とする。チャックの移動

中に、チャックに係る応力を測定し、伸長状態から60%（一定幅）の状態
で得られた応力（N）を各領域の「収縮力」と定義する。このようにして、
第1領域から第10領域の幅方向の収縮力を得ることができる。

[0104] 本実施形態において、吸収性物品全体の「全体収縮力」は、以下の方法に
よって測定される。まず、測定機器である引張試験機（インストロン）の上
下のつかみ部を外し、固定式長治具をそれぞれ取り付ける。引張試験機の固
定式長治具間の距離は、90mmとする。吸収性物品10は、サイド接合部
60による接合を解除せず、パンツ型の状態ままとする。測定対象となる吸
収性物品の前胴回り域を手前にした状態で、吸収性物品の内面（肌対向面）
に固定式長治具を挿入する。固定式長治具は、各サイド接合部の内側にそれ
ぞれ配置する。このとき、サイド接合部の幅方向の中心（前胴回り域と後胴
回り域の境界）が固定式長治具の中心に一致するように配置する。幅方向W
におけるチャックの一方を固定した状態で、チャック間の距離を変えるよう
にチャックのもう一方を移動させる。このときのチャックの移動スピードは
、300mm/minとする。なお、チャックの移動方向を変えるタイミン
グは、最大伸長時の95%の地点とする。チャックの移動中に、チャックに
係る応力を測定し、伸長状態から60%（一定幅）の状態で得られた応力（
N）を吸収性物品全体の「全体収縮力」と定義する。このようにして、吸収
性物品全体の幅方向の収縮力を得ることができる。

[0105] 以上、上述の実施形態を用いて本発明について詳細に説明したが、当業者
にとっては、本発明が本明細書中に説明した実施形態に限定されるものでは
ないということは明らかである。本発明は、特許請求の範囲の記載により定
まる本発明の趣旨及び範囲を逸脱することなく修正及び変更態様として実施
することができる。したがって、本明細書の記載は、例示説明を目的とする
ものであり、本発明に対して何ら制限的な意味を有するものではない。

[0106] 例えば、上記実施形態では、吸収性本体40は、前胴回り部材20及び後
胴回り部材30と別体として構成されている。この代わりに、吸収性本体4
0は、前胴回り域S1及び後胴回り域S2と一体に構成されていてもよい。

[0107] また、上記実施形態では、吸収性物品 10 は、サイド接合部 60 を有するいわゆるパンツ型の吸収性物品である。この代わりに、吸収性物品 10 は、テープ型の吸収性物品であってもよい。この場合、吸収性物品 10 は、サイド接合部 60 を有しておらず、前胴回り域 S1 と後胴回り域 S2 とを互いに着脱可能に固定するファスニングテープを有してよい。テープ型の吸収性物品においては、脚回り開口部が設けられた領域が股下域 S3 を構成し、前胴回り域 S1 と股下域 S3 との境界は、脚回り開口部の前端縁によって規定され、後胴回り域 S2 と股下域 S3 との境界は、脚回り開口部の後端縁によって規定されていてよい。脚回り開口部は、着用者の脚回りに配置される部分であり、吸収性物品の外側縁において幅方向の内側に向かって凹んでいる部分である。

産業上の利用可能性

[0108] 装着感の悪化を抑制しつつ、吸収性物品のずれ下がり抑制できる吸収性物品を提供することができる。

符号の説明

[0109] 10 : 吸収性物品
20 : 前胴回り部材
22 : 前伸縮性部材
30 : 後胴回り部材
32 : 後伸縮性部材
40 : 吸収性本体
41 : 肌面シート
43 : サイドシート
46 : 防漏カフ
46R : 接合部
46a : 起立支点
46b : 起立頂点
50 : 吸収コア

6 0	: サイド接合部
6 2	: 胴回り開口部
6 6	: 脚回り開口部
B L	: 着用者の身体のライン
F C	: 前中央部
F C 1 1	: 高収縮領域
F C 1 2	: 低収縮領域
F S	: 前サイド部
F S 1 1	: 高収縮領域
F S 1 2	: 低収縮領域
R C	: 後中央部
R C 1 1	: 高収縮領域
R C 1 2	: 低収縮領域
R S	: 後サイド部
R S 1 1	: 高収縮領域
R S 1 2	: 低収縮領域
S 1	: 前胴回り域
S 1 F	: 前端縁
S 2	: 後胴回り域
S 2 R	: 後端縁
S 3	: 股下域
L	: 長手方向
W	: 幅方向

請求の範囲

[請求項1]

互いに直交する長手方向及び幅方向と、

前胴回り域、後胴回り域、及び前記前胴回り域及び前記後胴回り域との間に配置された股下域と、を有し、

前記前胴回り域は、前記前胴回り域の前記幅方向の中央に位置する前中央部と、前記前中央部よりも前記幅方向の外側に位置する前サイド部と、を有し、

前記後胴回り域は、前記後胴回り域の前記幅方向の中央に位置する後中央部と、前記後中央部よりも前記幅方向の外側に位置する後サイド部と、を有し、

前記前胴回り域の前記幅方向の外側部と前記後胴回り域の前記幅方向の外側部とが接合された吸収性物品であって、

前記前中央部は、前記前中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前中央領域を有し、かつ前記前中央領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前サイド部は、前記前サイド部の前記長手方向の全長を10等分した複数の前サイド領域を有し、かつ前記前サイド領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後中央部は、前記後中央部の前記長手方向の全長を10等分した複数の後中央領域を有し、かつ前記後中央領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記後サイド部は、前記後サイド部の前記長手方向の全長を10等分した複数の後サイド領域を有し、かつ前記後サイド領域の平均の収縮力よりも高い収縮力を有する領域が前記長手方向に連続した高収縮領域を有し、

前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記後サイド部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接しており、

前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記後中央部の前記高収縮領域と前記幅方向に隣接している、吸収性物品。

[請求項2] 前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記前中央部の前記高収縮領域よりも前記長手方向外側に延出している、請求項1に記載の吸収性物品。

[請求項3] 前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域より前記長手方向内側に延出している、請求項1又は請求項2に記載の吸収性物品。

[請求項4] 前記前サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さは、前記前中央部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さよりも長い、請求項1から請求項3のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[請求項5] 前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前記高収縮領域よりも前記長手方向外側に延出している、請求項1から請求項4のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[請求項6] 前記前サイドの前記高収縮領域は、前記後サイド部の前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に延出している、請求項1から請求項5のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[請求項7] 前記後サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さは、前記前サイド部の前記高収縮領域の前記長手方向の長さよりも長い、請求項1から請求項6のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[請求項8] 前記前中央部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%に位置する、請求項1から請求項7のいずれか1項に記載の吸収性物品。

- [請求項9] 前記前中央部の前記高収縮領域は、前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%のみに位置する、請求項1から請求項7のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項10] 前記前中央部の前記高収縮領域の平均の前記収縮力は、前記前中央部全体の平均の収縮力の2.0倍以上である、請求項1から請求項9のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項11] 前記前中央部の前記高収縮領域の平均の前記収縮力は、前記前中央部全体の平均の前記収縮力の2.5倍以上である、請求項1から請求項9のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項12] 前記後サイド部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80%に位置する、請求項1から請求項11のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項13] 前記後サイド部の前記高収縮領域は、前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80%のみに位置する、請求項1から請求項11のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項14] 前記後中央部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80%に位置する、請求項1から請求項11のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項15] 前記後中央部の前記高収縮領域は、前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80%のみに位置する、請求項1から請求項11のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項16] 前記吸収性物品全体の前記幅方向の全体収縮力は、6N以下である、請求項1から請求項15のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項17] 前記前中央部の前端縁から前記前中央部の前記長手方向の全長に対する60～90%は、着用者の腹部の下端の凹みと対向して配置される、請求項8又は請求項9に記載の吸収性物品。

- [請求項18] 前記前中央部は、前記高収縮領域と、前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に位置し、かつ前記前中央部の平均の収縮力よりも低い低収縮領域と、を有する、請求項1から請求項17のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項19] 前記前中央部の前記低収縮領域の平均収縮力は、前記前中央部の前記高収縮領域の平均収縮力の0～20％である、請求項18に記載の吸収性物品。
- [請求項20] 前記前サイド部の前記高収縮領域の少なくとも一部は、前記前サイド部の前端縁から前記前サイド部の前記長手方向の全長に対する40～80％に位置する、請求項1から請求項19のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項21] 前記前サイド部の前記高収縮領域は、前記前サイド部の前端縁から前記前サイド部の前記長手方向の全長に対する40～80％のみに位置する、請求項1から請求項20のいずれか1項に記載の吸収性物品。
- [請求項22] 前記後中央部の前記高収縮領域は、前記幅方向に伸縮する後伸縮性部材が配置されている、請求項1から請求項21のいずれかに記載の吸収性物品。
- [請求項23] 少なくとも前記股下域及び前記後胴回り域に配置された吸収コアを有し、
前記後伸縮性部材は、前記吸収コアと重なる領域に配置されている、請求項22に記載の吸収性物品。
- [請求項24] 前記後中央部の後端縁から前記後中央部の前記長手方向の全長に対する0～80％は、着用者の臀部の頂点よりも上側の領域と重なるように配置される、請求項14又は請求項15に記載の吸収性物品。
- [請求項25] 前記後サイド部の後端縁から前記後サイド部の前記長手方向の全長に対する0～80％は、着用者の臀部の頂点よりも上側の領域と重なるように配置される、請求項12又は請求項13に記載の吸収性物品。

。

[請求項26] 前記前胴回り域と前記後胴回り域との間を延び、前記幅方向における中心を挟んで両側に配置された一对の防漏カフと、を有し、

前記後胴回り域における一对の防漏カフどうしの距離は、前記前胴回り域における一对の防漏カフどうしの距離よりも長い、請求項1から請求項25のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[請求項27] 前記後中央部は、前記高収縮領域と、前記高収縮領域よりも前記長手方向内側に位置し、かつ前記後中央部の平均の収縮力よりも低い低収縮領域と、を有する、請求項1から請求項26のいずれか1項に記載の吸収性物品。

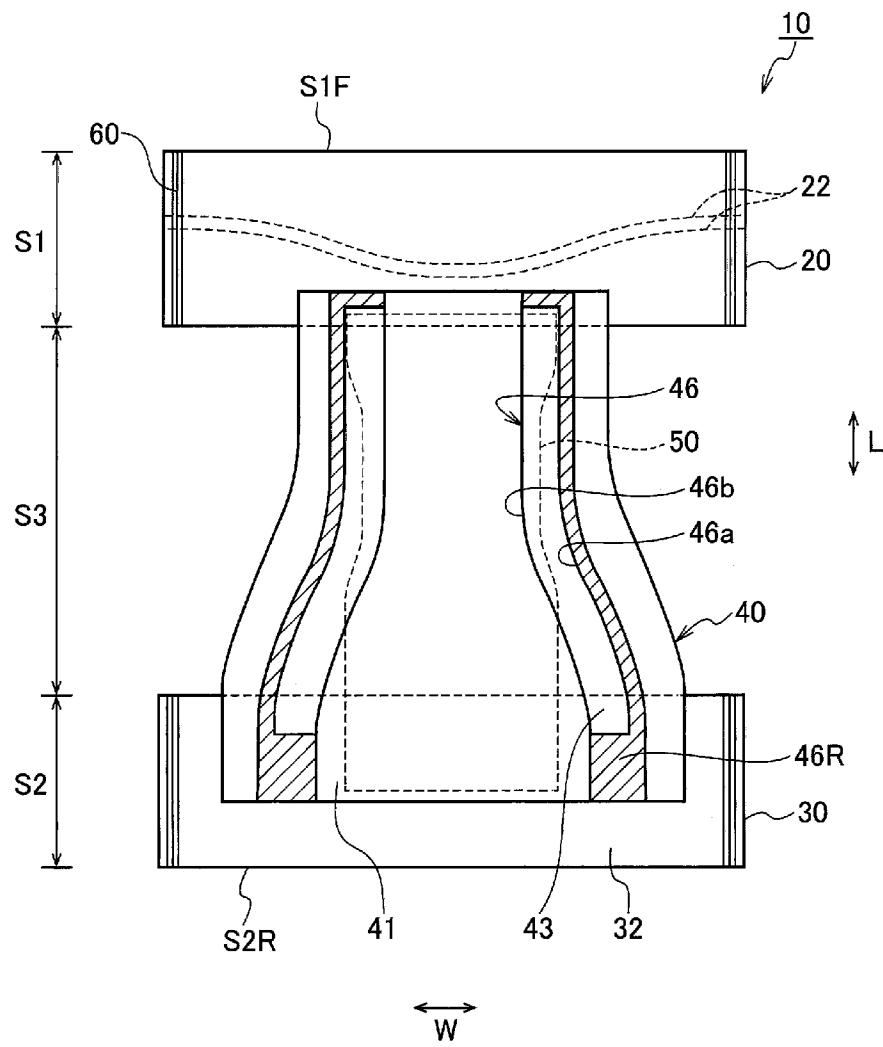
[請求項28] 前記後中央部の前記低収縮領域の平均の収縮力は、前記後中央部の前記高収縮領域の平均の収縮力の0%～60%である、請求項28に記載の吸収性物品。

[請求項29] 前記前胴回り域には、前記幅方向に伸縮する前伸縮性部材が設けられており、

前記前伸縮性部材は、前記前伸縮性部材の前記幅方向の中央から前記幅方向の外側に向かって前側に湾曲しており、

前記前伸縮性部材は、前記前中央部の前記高収縮領域及び前記前サイド部の前記高収縮領域と重なる領域に配置されている、請求項1から請求項28のいずれか1項に記載の吸収性物品。

[図1]



[図2]

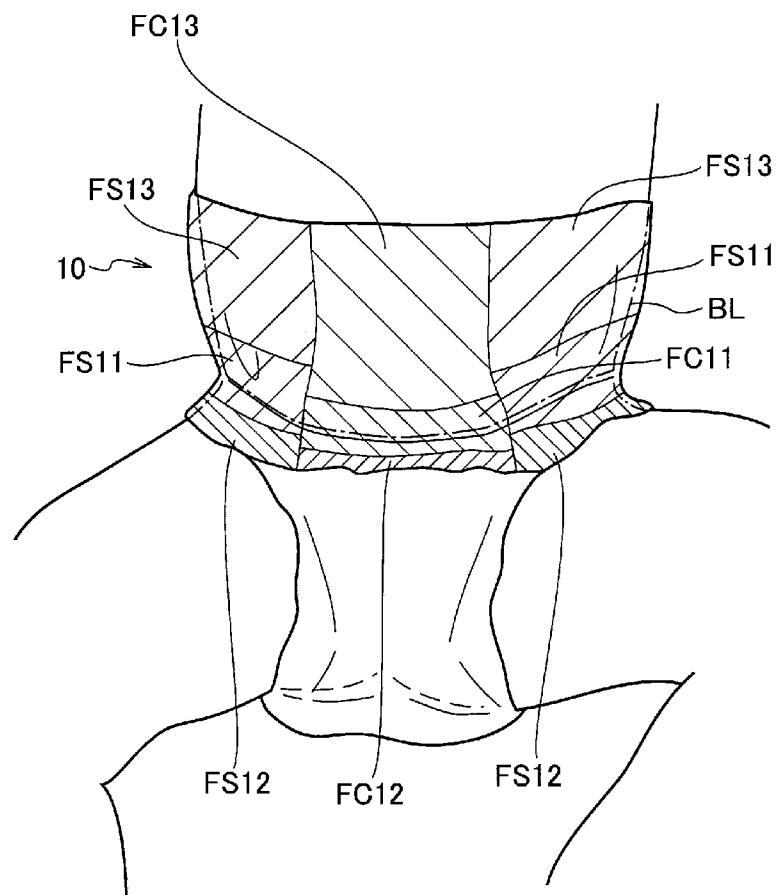
(a)

	FS		FC	FS	S1	
第1領域	FS13	FC13	FS13	S1		
第2領域						
第3領域						
第4領域						
第5領域	FS11		FS11			
第6領域						
第7領域						
第8領域						
第9領域	FS12	FC11	FS12			
第10領域		FC12				

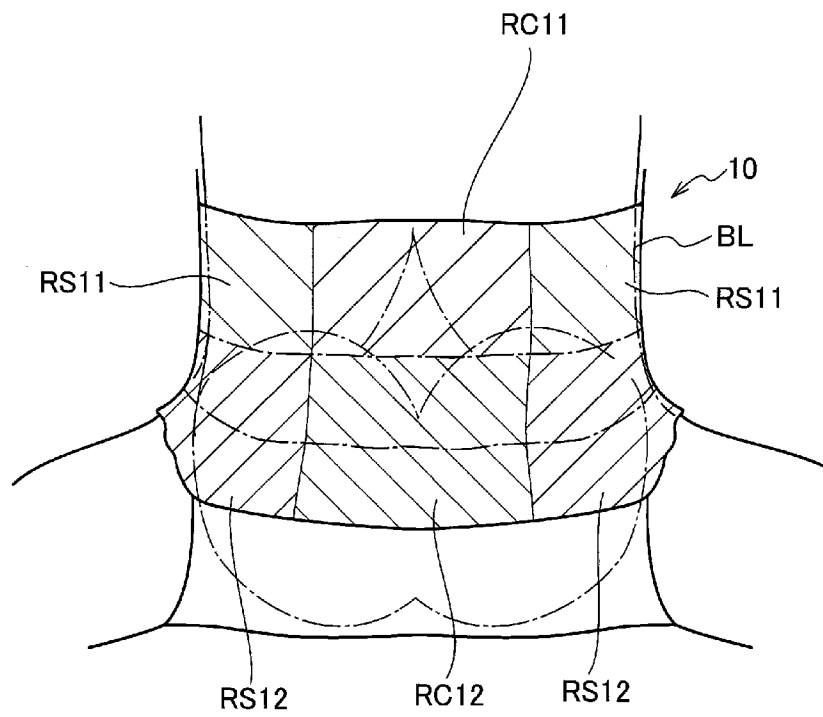
(b)

	RS		RC		RS		S2
第1領域	RS11	RC11	RS11				
第2領域							
第3領域							
第4領域							
第5領域	RS12	RC12	RS12				
第6領域							
第7領域							
第8領域							
第9領域	RS12	RC12	RS12				
第10領域							

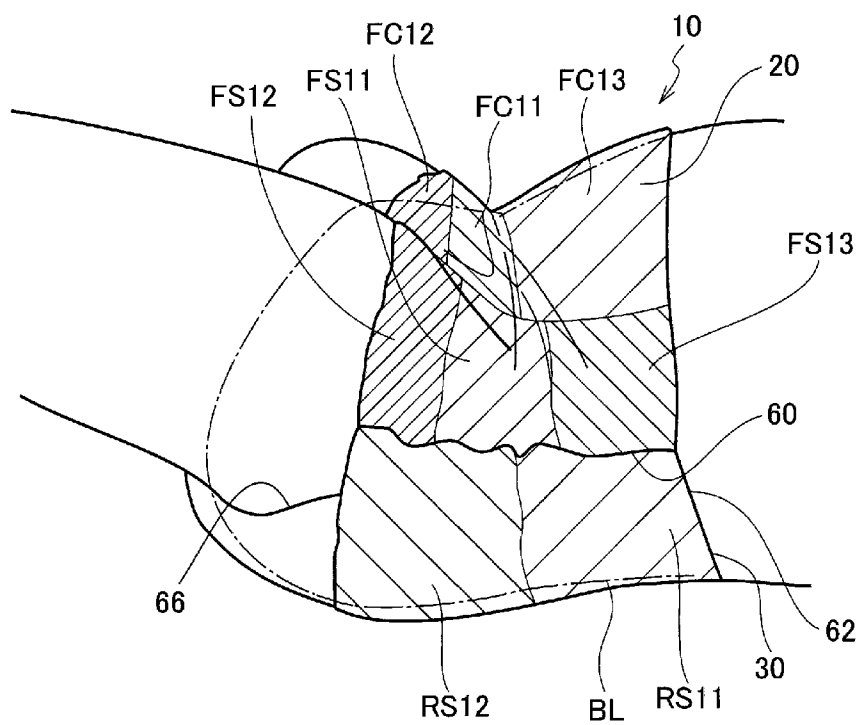
[図3]



[図4]



[図5]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/024896

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

Int.Cl. A61F13/49 (2006.01) i, A61F13/496 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

Int.Cl. A61F13/15-13/84, A61L15/16-15/64

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan	1922-1996
Published unexamined utility model applications of Japan	1971-2018
Registered utility model specifications of Japan	1996-2018
Published registered utility model applications of Japan	1994-2018

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y A	JP 2006-061681 A (KAO CORPORATION) 09 March 2006, claim 2, paragraphs [0008], [0018]-[0021], [0036], [0040], fig. 3, 8 & US 2006/0025746 A1, paragraphs [0051]-[0057], [0070], fig. 3, 10(b) & EP 1621168 A1	1-3, 8-25, 27-29 26-29 4-7
X Y A	JP 2015-073636 A (UNI CHARM CORPORATION) 20 April 2015, paragraphs [0008], [0021], [0029], [0077], fig. 2 (Family: none)	1, 10-16, 18-19, 22-25, 27-28 26-28 2-9, 17, 20-21, 29



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
03.08.2018

Date of mailing of the international search report
14.08.2018

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2018/024896

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2011-098052 A (KAO CORPORATION) 19 May 2011, paragraphs [0027]-[0031], fig. 2-6 (Family: none)	26-29
A	JP 2006-043015 A (KAO CORPORATION) 16 February 2006, paragraph [0044], fig. 9 (Family: none)	2-3, 29
A	JP 2007-044089 A (KAO CORPORATION) 22 February 2007 (Family: none)	1

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/49(2006.01)i, A61F13/496(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））

Int.Cl. A61F13/15-13/84, A61L15/16-15/64

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2018年
日本国実用新案登録公報	1996-2018年
日本国登録実用新案公報	1994-2018年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2006-061681 A（花王株式会社）2006.03.09, [請求項2], [0008], [0018]-[0021], [0036], [0040], [図3], [図8] & US 2006/0025746	1-3, 8-25, 27-29
Y	A1, [0051]-[0057], [0070], Fig. 3, Fig. 10(b) & EP 1621168 A1	26-29
A		4-7
X	JP 2015-073636 A（ユニ・チャーム株式会社）2015.04.20, [0008], [0021], [0029], [0077], [図2]（ファミリーなし）	1, 10-16, 18-19, 22-25, 27-28
Y		26-28

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

03.08.2018

国際調査報告の発送日

14.08.2018

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（ISA/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

西本 浩司

3B

9338

電話番号 03-3581-1101 内線 3320

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A		2-9, 17, 20-21 , 29
Y	JP 2011-098052 A (花王株式会社) 2011. 05. 19, [0027]-[0031], [図 2]-[図 6] (ファミリーなし)	26-29
A	JP 2006-043015 A (花王株式会社) 2006. 02. 16, [0044], [図 9] (フ ァミリーなし)	2-3, 29
A	JP 2007-044089 A (花王株式会社) 2007. 02. 22, (ファミリーなし)	1